

調査概要

今回の調査区は築山古墳の南50mに位置し、調査面積は東西70m×南北10mの700㎡です。ここで3基の古墳が見つかり、発見順に1号墳～3号墳と命名しました。いずれも古墳時代後期(6世紀後半)の円墳と考えられ、平面規模で1/2から1/3を確認しています。墳丘は大きく削られ、横穴式石室はその痕跡しか残っていませんでした。

今回、首長墓と考えられる築山古墳の周辺に小規模古墳が複数造られていたことがわかりました。山陰では初の発見で、当時の社会構造を解明する上で貴重な発見です。また、副葬品にも金銅装大刀、馬具などのほか、県内で初となるクチナシ形空(うつろ)玉が出土しており、重要な古墳群と考えられます。各古墳の概要は次のとおりです。

1号墳

- 墳形・規模 円墳と推定。周溝外径19m、墳裾径14m。
- 周溝 幅2～3m。深さ40～70cm。南西に土器溜まり。
- 石室 痕跡のみ確認。南西に開口。石室の石が残る。
- 出土遺物 銀環(ぎんかん、銀張りの耳飾)、金銅製鏝(つば)片、鉄刀、菱形飾金具・鎧(あぶみ)吊金具などの馬具、蓋坏・高坏・有蓋高坏などの土器。
*金銅=銅に金メッキしたもの
- 時期 6世紀後半で2号墳や築山古墳よりやや古い。
- 調査状況 石室の部分以外はほぼ終了。

2号墳

- 墳形・規模 円墳と推定。周溝外径17m、墳裾径13m。
- 周溝 幅2.5～3.5m。深さ70～80cm。北西部から須恵器が集中して出土。
- 石室 後世に大きな攪乱を受けており、痕跡を確認。石室に使用された石が大量に出土した。
- 出土遺物 金環(きんかん、金張りの耳飾)、大刀柄巻の銀線、辻金具などの馬具、金銅製クチナシ形空玉、ガラス丸玉・小玉、メノウ小玉、ガラス棗(なつめ)玉、コハク棗玉、蓋坏・有蓋高坏などの土器。
- 時期 6世紀後半で築山古墳と同時期頃。1号墳より新しい。
- 調査状況 ほぼ終了。

3号墳

- 墳形・規模 円墳と推定。周溝外径20m、周溝内径11m。
- 周溝 幅4～5m、深さ80cm程度。
- 石室 痕跡のみ確認。南西に開口。
- 出土遺物 乞御期待。
- 時期 6世紀後半と考えられる。
- 調査状況 調査途中。